

佐賀県研究成果情報（平成 25 年 3 月作成）

ナシを加害するチュウゴクナシキジラミに対する有効な薬剤					
[要約] ナシを加害するチュウゴクナシキジラミに対して、スピネトラム水和剤、クロチアニジン水溶剤、ニテンピラム水溶剤が有効である。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果 樹	専 門	果樹虫害	対 象	ナシ

[背景・ねらい]

2011 年 7 月に、県西部のナシ産地においてナシを加害するチュウゴクナシキジラミが発生し、落葉、すす病の発生等の被害が確認された。本種は国内初確認であるため、発生生態の早急な解明及び効果的な防除対策の確立が急務となっている。そこで、防除対策の確立のため、効果の高い薬剤を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 室内検定（データ略）で効果の高かったスピネトラム水和剤（商品名：ディアナ WDG）5,000 倍、クロチアニジン水溶剤（商品名：ダントツ水溶剤）2,000 倍、ニテンピラム水溶剤（商品名：ベストガード水溶剤）1,000 倍をチュウゴクナシキジラミ発生園で散布したところ、散布後の寄生葉率が無散布区と比較して低く、防除効果が高い（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. スピネトラム水和剤（商品名：ディアナ WDG）5,000 倍、クロチアニジン水溶剤（商品名：ダントツ水溶剤）2,000 倍、ニテンピラム水溶剤（商品名：ベストガード水溶剤）1,000 倍は、平成 24 年 3 月 7 日にチュウゴクナシキジラミに対して農薬登録された。
2. 幼虫は、葉裏にも寄生しているので、薬剤は葉裏まできちんとかかるようにいねいに散布する。
3. スピネトラム水和剤（商品名：ディアナ WDG）はスピノシン系、クロチアニジン水溶剤（商品名：ダントツ水溶剤）及びニテンピラム水溶剤（商品名：ベストガード水溶剤）はネオニコチノイド系殺虫剤である。薬剤の選定にあたっては、感受性の低下を避けるため同一系統の薬剤の連用及び複数回散布には注意する。

[具体的データ]

表1 チュウゴクナシキジラミに対する薬剤の防除効果 (2011年)

供試薬剤	希釈倍数 (倍)		寄生葉率(%)					
			8月31日 (散布直前)		9月2日 (散布3日後)		9月9日 (散布9日後)	
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
① ディアナWDG スピノラム 25%	5,000	①	3	1	0	0	0	0
		②	5	2	0	0	1	0
		平均	4.0	1.5	0	0	0.5	0
		防除効率 ¹⁾			(100)	(100)	(86)	(100)
② ダントツ水溶剤 クロチアジソン 16%	2,000	①	8	1	1	0	0	0
		②	6	1	0	0	0	0
		平均	7.0	1.0	0.5	0	0	0
		防除効率			(95)	(100)	(100)	(100)
③ ベストガード水溶剤 ニテンピラム 10%	1,000	①	4	2	0	0	0	0
		②	5	3	0	0	0	1
		平均	4.5	2.5	0	0	0	0.5
		防除効率			(100)	(100)	(100)	(95)
(参考) スミチオン水和剤 MEP 40%	1,000	①	4	1	6	2	1	6
		②	5	0	3	1	0	10
		平均	4.5	0.5	4.5	1.5	0.5	8.0
		防除効率			(23)	0	(88)	0
無散布区	—	①	6	2	6	4	5	11
		②	4	1	7	4	4	7
		平均	5.0	1.5	6.5	2.7	4.5	6.0

1) 防除効率 = $\{1 - (A \times B) / (C \times D)\} \times 100$

A: 散布直前の無散布区の寄生葉率, B: 薬剤散布後各調査日の試験薬剤区の寄生葉率

C: 散布直前の試験薬剤区の寄生葉率, D: 薬剤散布後各調査日の無散布区の寄生葉率

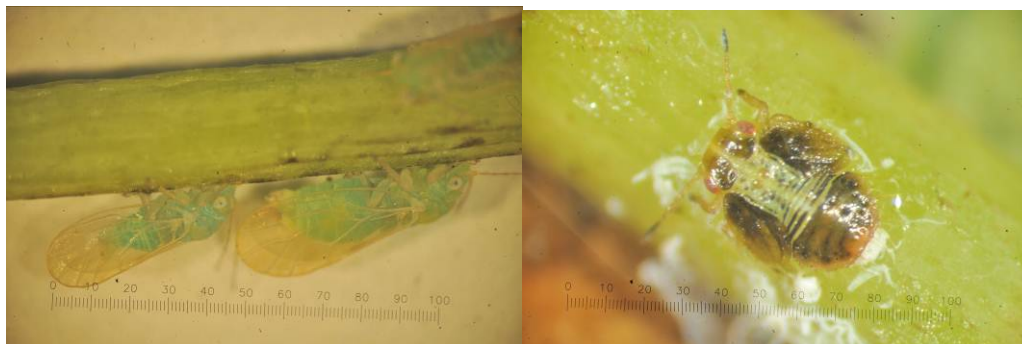


写真 チュウゴクナシキジラミ (左: 成虫、右: 幼虫)

[その他]

研究課題名: 果樹における難防除および新奇病害虫の迅速な防除対策の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2011年

研究担当者: 口木文孝・井手洋一・野口真弓

発表論文等:

- ・井手洋一・口木文孝(2012)チュウゴクナシキジラミに対する各種殺虫剤の評価. 九州病害虫研究会報(58):83-87.
- ・口木文孝(2012)佐賀県におけるチュウゴクナシキジラミの発生と防除対策. 植物防疫 66(1):590-595.
- ・平成23年度 佐賀県果樹試験場業務年報